

信州の環境にやさしい農産物認証 栽培事例（ズッキーニ）

認証取得者氏名	JA北信州みゆきズッキーニ部会 関沢義人	認証番号	50-00151	地域名	北信
地域（標高）	500m				
土壌（土性）	表層多腐植質黒ボク土				

項目	生産計画の内容	補足メモ
1 栽培 状況	(1) 品目	ズッキーニ （品種：春作：ラベン、夏秋作：KZ2）
	(2) 作型名	露地
	(3) 面積	30 a
	(4) 栽培戸数又は労働力	2人
	(5) 栽培期間	平成27年5月 ～ 平成27年9月
	(6) 収穫期間	平成 27年6月20日頃 ～ 平成27年9月30日頃
	(7) 収穫量	H26実績 5,200 kg （うち出荷量： 4,800 kg） H27計画 6,600 kg （うち出荷量： 6,000 kg）

2 栽培 方法	(1) 土づくり	村内きこの農家からの廃オガによる堆肥 (1.5年堆積発酵したもの) 1t/10a施用																																
	(2) 播種	平成27年 5月6日（春作） 7月3日（夏秋作）																																
	(3) 育苗期間	平成27年 5月6日～ 5月26日（春作）																																
	(4) 定植	5月26日																																
	(5) 肥培管理	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 堆肥の施用により化学肥料の施肥量を抑える。 (堆肥施用による土づくりをしたうえで、化学肥料を施肥して生育をコントロールする) <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 土壌分析により土の状況を把握し、肥培管理している。(化学肥料の施用を控えている) <p>肥料の施用内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">肥料の種類</th> <th rowspan="3">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">窒素</th> <th rowspan="2">リン酸</th> <th rowspan="2">加里</th> </tr> <tr> <th>うち化学由来</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BB473</td> <td>20</td> <td>2.8</td> <td>2.8</td> <td>3.4</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>NKみゆき2号</td> <td>40</td> <td>7.3</td> <td>6.9</td> <td>0.5</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>60</td> <td>10.1</td> <td>9.7</td> <td>3.9</td> <td>3.8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>51.5</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)			窒素		リン酸	加里	うち化学由来		BB473	20	2.8	2.8	3.4	2.6	NKみゆき2号	40	7.3	6.9	0.5	1.2	合計	60	10.1	9.7	3.9	3.8	地区慣行施肥量 (kg/10a)	20	低減率(%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																
		窒素			リン酸	加里																												
		うち化学由来																																
BB473	20	2.8	2.8	3.4	2.6																													
NKみゆき2号	40	7.3	6.9	0.5	1.2																													
合計	60	10.1	9.7	3.9	3.8																													
地区慣行施肥量 (kg/10a)	20																																	
低減率(%)	51.5																																	

2 栽培方法	(6) 病害虫防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畝マルチと畝間の敷きワラによる除草。(春作) ・生育初期における防虫ネット栽培。 ・銀テープによる防虫。 ・ほ場周囲でのソルゴー植栽による防虫とドリフト防止。 <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候、標準散布時期を考慮し、散布効果の高い時期に農薬を散布する。 ・地域が発信するオオタバコガの初発予察に基づく防除。 ・生物・微生物等農薬の活用。(除外カウント剤) <p>病害虫防除の内容(春作)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺菌剤</td> <td>① トップジンM水和剤</td> <td>1,500</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="4">8</td> <td>うどんこ病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② ハイキナー水和剤</td> <td>1,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>軟腐病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ zポルドー</td> <td>500</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>斑点細菌病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ ジーファイン水和剤</td> <td>1,000</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td></td> <td>軟腐病、うどんこ病</td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td>⑤ デルフィン顆粒水和剤</td> <td>1,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="2">9</td> <td>オオタバコガ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑥ フェス顆粒水和剤</td> <td>5,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>アブラムシ</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td>合計</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>18</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>削減率(%)</td> <td>88.9%</td> </tr> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	殺菌剤	① トップジンM水和剤	1,500	1	1	1			8	うどんこ病		② ハイキナー水和剤	1,000	1	1	1	1		軟腐病		③ zポルドー	500	1	1	1	1		斑点細菌病		④ ジーファイン水和剤	1,000	2	2	4	4		軟腐病、うどんこ病	殺虫剤	⑤ デルフィン顆粒水和剤	1,000	1	2	2	2		9	オオタバコガ		⑥ フェス顆粒水和剤	5,000	1	1	1			アブラムシ	除草剤								1		植調剤															合計	10	8	0	18		農薬の使用回数	2	地区慣行農薬使用回数	18	削減率(%)	88.9%
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫																																																																																															
	殺菌剤	① トップジンM水和剤	1,500	1	1	1			8	うどんこ病																																																																																															
		② ハイキナー水和剤	1,000	1	1	1	1			軟腐病																																																																																															
		③ zポルドー	500	1	1	1	1			斑点細菌病																																																																																															
	④ ジーファイン水和剤	1,000	2	2	4	4		軟腐病、うどんこ病																																																																																																	
殺虫剤	⑤ デルフィン顆粒水和剤	1,000	1	2	2	2		9	オオタバコガ																																																																																																
	⑥ フェス顆粒水和剤	5,000	1	1	1				アブラムシ																																																																																																
除草剤								1																																																																																																	
植調剤																																																																																																									
					合計	10	8	0	18																																																																																																
農薬の使用回数	2																																																																																																								
地区慣行農薬使用回数	18																																																																																																								
削減率(%)	88.9%																																																																																																								
(7) 雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> ・畝マルチと畝間のワラまたはそば残茎敷きを行う。 ・耕運による機械防除 																																																																																																								
(8) 収量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・畝幅120cm、株間75cmの1条植え栽培。約6t/10aの収量。 																																																																																																								
(9) その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・作付地が盆地でなく高台地形のため通風がよく、栽培しやすい。 ・堆肥を毎年施用している。 ・部会全体では、耐病性品種の作付けが多い。 ・防風ネットによる作物保護、防除回数の減を図っている。 																																																																																																								

3 販売状況	(1) 主な販売地域	<ul style="list-style-type: none"> ・関東、中京、関西方面
	(2) 販売方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全量JAへ出荷販売
	(3) 県認証の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・認証マークを段ボールへ印刷。
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・JAでは、信州の環境にやさしい農産物認証を取得した農産物を区分して取り扱っている。

始めた動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A 管内の村独自認証制度と全農系の認証制度を一本化した取組を行ってきて、現在の県認証に至る。 ・ 安全安心な生産をモットーに取り組んだ。
農家のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売上のメリットが加われば、より魅力的な制度となる。 ・ 農薬、肥料等の使用を限定しており、生産に対する「こだわり」がある。 ・ 農産物認証が仲間意識づくりの要素にもなっている。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理									(春			∧			○			◎			□			×												
病害虫防除															①			②			③			④												
除草															機械			フラ			敷き															
土づくり 施用	5月に廃オガ堆肥1t/10aを施用																																			

凡例 ○：播種 ◎：定植 □：収穫 ×：収穫終了 ∧：保温

ここがポイント！

- ・ズッキーニは、作物の特性上、他作物に比べて、農薬使用回数の削減が可能。
- ・畝間のフラ敷き等の基本技術の励行。
- ・農産物認証が仲間意識づくりの要素にもなっている。
- ・農薬散布回数減も含めた省力化栽培での収益向上を目指している。



防虫ネット



防草マルチ



敷きワラ



銀テープ



周囲ソルゴー



防風ネット